

今週、いよいよ前期の委員会活動がスタートしました。初めて委員会に挑戦した人もいます。入りたくても入れなかった人もいますが、委員会活動だけでなく、学級の係活動やボランティア活動にも、ぜひ積極的にチャレンジしてほしいと思います。

以前、“成功するかどうか”は、成功するまで挑戦し続けるか、成功する途中で諦めてしまうか、の違いだと言いました。初めての取り組みならなおさら、最初は失敗の連続だと思います。個人差はあっても、人間はみんな、“できない”“分からない”ところからスタートしていると思うので、“できる”“分かる”ようになるまで挑戦し続けてください。

発明家として知られるトーマス・エジソンは、蓄電池の開発をしているとき、実験を1万回も失敗したそうです。共に発明に尽力する仲間も、実験の失敗を積み重ねていくとともに諦めていったそうです。しかし、エジソン自身は失敗を失敗として捉えなかったそうです。1万回も失敗していると誰かに指摘されたときに、「失敗ではない。うまくいかない1万通りの方法を見つけたのだ。」と答えたそうです。

挑戦の先は成功か学びしかない。

でっかい挑戦の先はでっかい成功かでっかい学びしかない。

失敗とは何もしないこと。行動しないこと。

「てっぺんの朝礼」(大嶋啓介)

失敗を文字通り“失敗”と捉えるか。それとも、成功するために必要な“経験”“学び”として前向きに捉えるか、ということは「事実の一つ、解釈は二つ」だと思います。先を考えて行動することはとても大切なことです。しかし、考えたために慎重になりすぎて何も行動を起こさなくなると、何も変化は生まれません。ときには、考える前に“やってみる”“行動してみる”ことも大事なのではないのでしょうか。

学級の係活動がスタートして1週間になります。毎朝、私が教室に向かうと、たたまれて、箱詰めされた牛乳パックが目に入ります。また、職員室前のボックスが空になっています。教室に行くと、教卓の上に健康観察板が置いてあります。給食後、気がついたら教壇がきれいに水拭きされています。終学活前に一度職員室に戻って、再び教室に行くと、配布物を配ってくれています。一人一役の係活動を、責任をもってやってくれている証拠です。してくれる人がいるからこそ、時間どおりに動けます。毎日ありがとう！

